



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和4年度5月号
令和4年4月28日(木)
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

「当たり前」ではないこと

校長 三杉 紀文

早いもので、新学期がスタートして1ヶ月になろうとしています。学校では、専門委員会や係・当番など新しい学級組織作りが終わり、時間割による授業や1年生の部活動本入部も始まりました。

さて、私個人も本校に着任して1ヶ月になります。学校の様子が変わってくるにつれて、驚かされたことがいくつもあります。

たとえば、本校の校舎内に飾られている油絵作品の数々。これまでの私の経験では、生徒が描いた油絵作品がこれほどの数、飾られている学校は見たことがありませんでした。作品のサイズも大きいものが多く、美術部の生徒によると1作品を仕上げるのに早くても2か月はかかるとのことでした。美術館にでもいるのかと錯覚してしまいそうな、油絵のある学校というのは、落ち着いた雰囲気を出して私はとても素敵だなと感じています。

また、私は朝型の人間で、今まではどこの職場へ行っても、出勤する早さは1番か2番でした。それが本校では5本の指にも入りません。朝早くから出勤している教職員が少なくありません。朝から、廊下に入り込んだ砂などをきれいにふき取る清掃、各教室や各階の廊下の窓を一つ一つ開けての換気、教室や備品の整備・修繕、教室の黒板へ生徒宛てのメッセージ書き、学級通信の発行など、人知れずそれぞれ学校を支える活動が行われています。働き方改革の視点からは、こうした教職員の善意に甘えることなく、勤務時間の中で勤務が済むように校長が努めなければならないのですが、本校は教職員の善意と熱意に支えられていると感じています。

さらに、保護者や地域の方の支援が厚いことです。3月の吹奏楽部の定期演奏会では、受付で保護者の方が感染症対策も含めて組織的に対応されていました。また、朝は、校門前でPTAや地域で見守り隊の方々による挨拶運動が行われ、多くの方々が協力して子どもたちに声をかけていただいています。これほどの支援と連携は、私にとっては初めての体験でした。まさに学校が家庭や地域に支えていただいていると強く実感しています。

こうした、生徒たちの力、教職員の熱意、家庭・地域の支援の大きさというのは、決して「当たり前」のことではありません。少なくともこの街の外からやってきた私にとっては、感嘆に値することです。

折しも、今年度は本校創立50周年という大きな節目の年でもあります。このような志木二中の強みを生かしながら、生徒たちが安心して成長していける、よりよい志木二中を目指してまいります。今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。